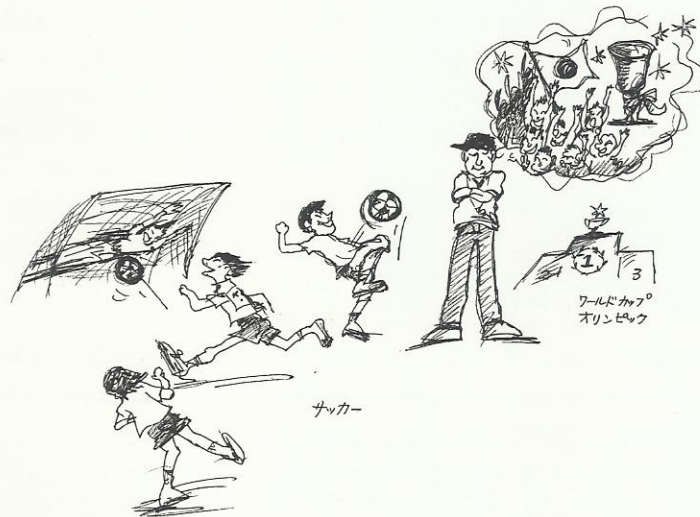


日本のスポーツ



元Jリーガー
やべ じゅろう
矢部 次郎

日本の国技（国を代表とするスポーツ）と言えば「相撲」があります。鬻を結った大きな力士がぶつか
りあう姿は迫力満点です。しかし、日常で国民が相撲をする機会はほとんどありません。相撲は「プレーす
る」ことよりも「見る」ことが多いのです。では他に日本で人気があるスポーツを挙げると「サッカー」や
「野球」などがあります。世界的にもメジャースポーツであるサッカーは日本でも1993年にプロリーグ（Jリー
グ）が発足し、2002年にはお隣韓国と共催でワールドカップが開かれ、最近では選手の海外移籍が頻繁に
行われるようになり世界レベルに追いつこうと努力しています。「Jリーグ世代」と呼ばれる年代がこども
にサッカーを薦めることもあり、少子化と叫ばれる昨今でもサッカー人口の増加が見込まれています。か
たや野球のプロリーグ設立は1936年と長い歴史があり、テレビ放送も毎日行われ、現在日本で最も注目が
高いスポーツと言えます。また高校野球の全国大会は季節の風物詩として関心が高く根強い人気がありま
す。男の子の「将来なりたい職業ランキング」で「サッカー選手」や「野球選手」は常に1位と2位を競う



ほど人気があります。先程の述べたワールドカップやオリンピックなどの国際大会になるとスポーツの種別
に関係なくメディアは大きく取り上げ、国民が一丸となって日本代表チームを応援する姿が見られます。結
果に一喜一憂し、全力を出して戦う選手に国民が励まされる様子はいつの時代も変わりません。ここで活
躍する選手の多くが学校で競技を学び、卒業後競技を続けられる企業や企業がスポンサーするクラブに所
属しています。このようにこれまでの日本のスポーツは「学校」や「企業」が主体となっていました。しか

し、最近の不景気でスポンサー企業の撤退が相次ぎ、スポーツ界はより厳しい時代になりました。メジャーとされないスポーツやこれからの若い選手を育成していく場では、競技をあきらめなければいけない選手や指導を受けられない選手が多くなります。国際大会に出場できない選手の多くが学校卒業やスポンサー撤退によって競技から離れてしまうのです。また就労時間が長い社会人、塾や習い事に忙しいことも私たちもスポーツを楽しむ余裕がありません。子どもに対する事件やテレビゲーム・携帯ゲームの普及により昔に比べて外で遊ぶことへの姿勢が減っているようです。最近の調査では子どもの運動能力の低下が目立っています。もっと近くで気軽にスポーツを楽しむ環境が必要となり、1995年より文部科学省が幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブの設立を薦めています。これはヨーロッパでよく見られるクラブ形態です。様々なスポーツクラブを多角的に運営し、アスリートから生涯学習にいたるまで地域の方が今やりたいスポーツを楽しめる環境作りを目指すものです。この取り組みが普及すればそれぞれが近隣で自分に合ったクラブでプレーを続け、健康的な体づくりと仲間づくりができます。スポーツにも国や時代によってスタイルやトレンドがあります。それぞれの地域に合ったやり方で子どもからお年寄りまでがスポーツにした親しめる環境づくりを進め、「見る」ことよりも「プレーする」機会を増やすべきです。ゴールの瞬間、勝利の瞬間の感動は何事にも代えがたい喜びを与えてくれますから。

やべ じろう
矢部 次郎

ねん がつ にちう
1978年5月26日生まれ

なら めざ なら けんいん
奈良からJリーグを目指す「奈良クラブ」を牽引する

ならしゅっしんもと
奈良出身元Jリーガー。

ほうじんなら りじ
NPO法人奈良クラブ理事。

プレーヤー、コーチ、クラブマネージメント、少年指導等を兼任する。